

あなたはゼカリヤが見たものを見ていますか

「『私の聖なる力によるのである』と大軍を率いるエホバは言う」。

ゼカリヤ 4:6 彼は言った。「ゼルバベルへのエホバの言葉はこうです。『「軍隊によるのでも、人間の力によるのでもなく、私の聖なる力(*)によるのである』と大軍を率いるエホバは言う。」

73番の歌 私たちに大胆さを与えてください

何を学ぶか*エホバは預言者ゼカリヤに印象的な幻を幾つも見せました。これらの幻は、**清い崇拝を回復**させるために奮闘していた、ゼカリヤとエホバの民に力を与えるものでした。そして、難しい状況の中でもエホバに忠実に仕えている現代の私たちにとっても、助けになります。この記事では、ゼカリヤが見たランプ台とオリーブの木の幻からどんな大切な点を学べるかを考えます。

1. バビロンで捕囚になっていたユダヤ人が喜びに包まれたのはなぜですか。

ユダヤ人は喜びに包まれていました。エホバ神がペルシャの「キュロス王の心を奮い立たせ」たので、ユダヤ人は何十年も捕囚になっていたバビロンから解放されることになったのです。キュロスはユダヤ人に対して、故国に戻り、「イスラエルの神である**真の神エホバの家を建て直す**」ように、との布告を出しました。 (エズ 1:1 ペルシャのキュロス王の治世の第1年のことである。かつてエレミヤが語ったエホバの言葉が実現するよう、エホバはキュロス王の心を奮い立たせ、王国全域に布告を出させた。王はその布告を文書に記した、3 それで、**その神の民である人は誰でも、ユダのエルサレムに上っていき、イスラエルの神である**真の神エホバの家を建て直すがよい**。** その家はかつてエルサレムにあった(if*その方はエルサレムにいる)のである。神がその人と共におられるよう願っている)それを聞いたユダヤ人は、本当にうれしかったことでしょう。 **真の神エホバがご自分の民に与えた土地**で、**エホバへの崇拝**がついに**回復**されるのです。

2. エルサレムに帰還した人たちは、まずどんなことを行いましたか。

2 紀元前 537 年、バビロン捕囚から帰還した人たちの第 1 陣が、南のユダ王国の首都だったエルサレムに到着しました。それらの人たちは、すぐに神殿再建に取り掛かり、紀元前 536 年にはすでに土台を据えていました。

3. ユダヤ人はどんな反対に直面しましたか。

3 ユダヤ人は神殿の再建を始めましたが、すぐに激しい反対に直面しました。周辺の国々の人たちが、「絶えずユダの民の士気をくじき、建てる意欲を失わせようとした」のです。（エズ 4:4 その土地の人々は絶えずユダの民の士気をくじき(d*手を弱め)、建てる意欲を失わせようとした）そして、状況はさらに悪くなっています。紀元前 522 年にアルタクセルクセスがペルシャの王になりました。* 何十年も後、ネヘミヤが総督だった時代に王だったアルタクセルクセスは別人で、ユダヤ人に対してとても親切でした。反対者たちはこれを絶好の機会と考え、「法の名の下に問題を巻き起こして」、神殿の建設をやめさせようとたくらみました。（詩 94:20 腐敗した支配者たち(*王座/裁判人たち)はあなたと同盟を結ぶだろうか。法の名の下に(*規定を用いて)問題を巻き起こしているのに）王に対して、ユダヤ人は反逆を企てている、といううその内容の手紙を送ったのです。（エズ 4:11-16 13 ぜひ王に知りたいのですが、もしこの都市が建て直されて、城壁が完成するなら、ユダヤ人は人頭税や物品税や通行料を納めず、王の財政に損失が及ぶでしょう。14 私たちは王宮から給料を頂いて(d*王宮の塩を食べて)おり、王が損害を被るのを見過ごすわけにはまいりませんので、この手紙を王にお送りいたします。15 王の先祖の記録の調査がなされれば、お分かりいただけると思います。この都市は反逆的で、王たちと州にとって有害であり、反乱を起こす者たちが昔からいました。そのために、この都市は滅ぼされたのです。16 この都市が建て直されて、城壁が完成するなら、川向こうの地域において王には何の権力もなくなる、ということをお知らせいたします）アルタクセルクセスはこの話を信じ、神殿の建設を禁じる命令を出しました。（エズ 4:17-23 「あいさつを送る。18 あなたたちから送られた公文書は私の前ではっきりと読まれた(if*で翻訳されて読まれた)。19 私の命令により調査がなされ、その都市が昔から王たちに逆らい、謀反や反乱を起こしてきたことが分かった。20 また、かつてエルサレムを治める強い王たちが川向こうの地域全体を支配していたことがあり、人頭税や物品税や通行料がその王たちに納められていた。21 それで、工事を中止するよう人々に命じよ。私が命令を出すまで都市が建て直されないようにするのである。22 この指示を決して軽く見てはならない。王への損害が大きくなないようにするためである」。23 アルタクセルクセス王の公文書の写しが読み上げられると、レフムと書記シムシャイと同僚たちはすぐにエルサレムのユダヤ人の所に行き、力強く工事をやめさせた。）こうして、喜びのうちに始まった神殿建設はストップしていました。（エズ 4:24 こうして、エルサレムの神の家の工事は中断され、ペルシャのダリウス王の治世の第 2 年までそのままだった）（再建の業は西暦前 522 年に禁止され、「ダリウスの治世の第二年(西暦前 520 年)まで停止）

4. 神殿の建設が禁じられた後、エホバはどんなことをしましたか。（イザヤ 55:11）

4 その土地に住むエホバを崇拜していない人たちや、ペルシャの政府の一部の役人たちは、神殿の建設をやめさせようと決意していました。でも、エホバは神殿が再建されることを望んでいました。そして、エホバはご自分が望むことを必ず成し遂げる方です。（イザヤ 55:11 私の口から出る言葉も、成果を収めずに私のもとに戻ることはない。必ず私の望むこと(*喜ぶこと)を成し遂げ、私が託した使命を確実に果たすを読む。）エホバはゼカリヤを預言者に選び、印象的な幻を 8 つ見せました。そして、ゼカリヤはその幻についてユダヤ人に話し、励みを与えました。それを聞いた人たちは、反対者たちを恐れる必要がないことを理解し、エホバから命じられた活動を続けるよう動かされました。ゼカリヤは 5 番目の幻の中で、ランプ台と 2 本のオリーブの木を見ました。

（8つの幻：第 1 の幻：赤い馬に乗った者が、ぎんばいかの木々の間に他の 3 人の騎手と共に立っている。この幻は、エルサレムに憐れみが示され、神殿が再建されるという保証をもって終わる。第 2 の幻：ユダを追い散らした 4 本の角が 4 人の職人によって投げうたれる。第 3 の幻：測り縄を持った若者がエルサレムを測る用意をするが、ひとりのみ使いは同市がさらに拡大することや、エホバに保護されることを予告する。第 4 の幻：大祭司ヨシュアの汚れた衣が取りのけられ、礼服に取り換えられる。第 5 の幻：ゼカリヤは、二本のオリーブの木から油の供給を受ける七つのともしび皿のある金の燭台を見る。ゼルバベルは神の靈の助けを得て

神殿の再建を完了するであろう。**第6の幻**: 飛んで行く巻き物は、盗みをする者やエホバの名において偽りの誓いを立てる者すべてのゆえに進んで行くのろいを表わす。**第7の幻**: “邪悪”という名の女がエファ升の中に入れられてシナルに運ばれる。**第8の幻**: 二つの銅の山の間から4台の兵車が出て来て、地を動き回る)

5. この記事では、どんなことを考えますか。

5私たちも、時には気落ちすることがあります。それで、エホバがゼカリヤに見せた5番目の幻から、ユダヤ人と同じように励みを得ることができます。この幻について理解するなら、**反対に直面したり、変化を経験したり、理解できないような指示を受けたりする時にも、エホバに忠実に仕える助けを得られるでしょう。**

反対に直面する時



ゼカリヤは幻の中で、7つのランプがあるランプ台に2本のオリーブの木から油が供給されている様子を見た。（6節を参照。）

6. ゼカリヤ4章1-3節にある、ランプ台と2本のオリーブの木の幻が、ユダヤ人に勇気を与えるものだったと言えるのはなぜですか。（表紙の絵を参照。）

6 ゼカリヤ4:1-3 私と話していた天使が戻ってきて、眠っている人を起こすときのように、**私を目覚めさせた。** 2 それから私に言った。「何が見えますか」。私は言った。「全体が金でできているランプ台が見えます。**台の上部に鉢**があります。**台の上には7つのランプ**があります。7つです。**台の上にあるランプには7本の管**が付いています。3 そして、横には2本のオリーブの木があって、1本は鉢の右に、1本は鉢の左にあります」を読む。**ランプ台と2本のオリーブの木の幻**は、**反対に立ち向かうようユダヤ人に勇気を与えるもの**でした。なぜそ
う言えるでしょうか。ランプ台には、**絶えることなく油**が供給されていました。**2本のオリーブの木**から、**鉢**のようなものに油が注がれ、そこから**7つのランプ**それぞれに油が供給されていました。そのおかげで、**ランプの火**は消えることなく燃え続けていました。ゼカリヤが、「**これらのものは何を表しているのでしょうか**」と尋ねると、**天使**はこう答えました。「『軍隊によるのでも、人間の力によるのでもなく、私の聖なる力によるのである』と大軍を率いるエホバは言う」。 (←ゼカ4:4, 6) **油**は、**エホバの強力な聖なる力を**表していました。**聖なる力**は尽きること
がありません。そして、**ペルシャ帝国の軍隊**全てをもってしても、足元にも及ばないほど強力な
ものです。そのような力を持っているエホバが共にいてくださるのですから、ユダヤ人は**反対**が
あっても神殿の再建を成し遂げることができるのです。こうしたことを聞いて、ユダヤ人は大い

に励まされたことでしょう。ユダヤ人に求められていたのは、エホバを信頼し、神殿の建設に再び取り掛かることでした。そして実際、禁止令が出されていた中でも工事を再開したのです。

7. 神殿を再建していたユダヤ人にとって追い風となるどんな変化が生じましたか。

7やがて、神殿を再建していたユダヤ人にとって追い風となる変化が生じました。どんな変化でしょうか。当時ペルシャを治めていたダリウス1世が、その治世の第2年（紀元前520年）に、神殿の再建に対する禁令は違法であるということを知ったのです。そして、神殿を完成させるようという布告を出しました。（エズ 6:1-3）そこでダリウス王は命令を出し、宝物が納められているバビロンの保管所（d*記録の家）の調査を行わせた。2そして、メディア州にあるエクバタナの要塞で巻物が見つかった。そこには次の覚書が記されていた。3「キュロス王の治世の第1年に、キュロス王はエルサレムの神の家に関して命令を出した。『犠牲を捧げる場所として、その家が建て直されるようにせよ。土台を据え、家の高さは27メートル、幅は27メートルとし』）これだけでも驚くべきニュースでしたが、この布告にはさらに続きがありました。ダリウスは周囲の国々の人たちに対して、神殿の再建を邪魔することを禁じ、資金や資材を提供するようにと命じたのです。（エズ 6:7-12）その神の家の工事を妨げてはならない。ユダヤ人の総督と長老たちは、神の家を元の場所に建て直す。8さらに、神の家を建て直すユダヤ人の長老たちのためにあなたたちが行うべきことを、私は命じる。王の財産のうち川向こうの地域で徴収された税から、速やかに費用が支払われるようせよ。工事が滞らないようにするためである。9加えて、天の神への全焼の捧げ物のための雄羊や子羊や若い雄牛、また小麦、塩、ぶどう酒、油など、必要なものは何でも、エルサレムにいる祭司たちが言う通りに、毎日必ず与えよ。10天の神に喜ばれる捧げ物と、王と王族の幸福を願う祈りが、絶えず捧げられるようにするためである。11次のことも命じる。この布告に従わない者は自分の家から引き抜かれた材木にはりつけ（*串刺し）にされ、その家は公衆便所（if*ごみ捨て場/ふんの山）とされる。12王や民が従わないでエルサレムの神の家を破壊しようとするなら、その場所をご自分の名のために選んだ神によって滅ぼされてしまうことを私は願う。私ダリウスが、このように命令する。速やかに実行せよ」）そして4年余り後、紀元前515年について神殿が完成しました。（エズ 6:15）ダリウス王の治世の第6年、アダル（*）の月の3日には、神の家は完成していた）



反対に直面した時には、エホバの力に頼る。（8節を参照。）

8. 反対に直面しても勇気を出せるのはなぜですか。

8 現代でも、エホバに仕える人たちの多くが反対に直面しています。例えば、エホバの証人の活動が制限されている国では、兄弟姉妹が逮捕され、「総督や王の前に連れていかれ」ことがあります。そうした人たちに証言するためです。（マタ 10:17, 18 人々に用心していなさい。あなたたちを地方法廷に引き渡し、会堂でむち打つからです。18 そして、あなたたちは私のために総督や王の前に連れていかれます。その人たちと異国の人々に証言するためです）時には、政権が変わって、これまでよりも自由にエホバを崇拝できるようになることもあります。また、公正を愛する裁判官がエホバの証人に対して好意的な判決を下すこともあります。別の反対に直面している人たちもいます。エホバを比較的自由に崇拝できる所に住んでいても、家族や親族が、エホバに仕えるのをやめさせようとして激しく反対するかもしれません。（マタ 10:32-36 それで、人前で私を認める人全てを、私も、天にいる父の前で認めます。33 しかし、人前で私を認めない人を、私も、天にいる父の前で認めません。34 私が地上に平和をもたらすために来たと考えてはなりません。平和ではなく、剣をもたらすために来ました。35 分裂を生じさせるために来たのです。息子が父に、娘が母に、嫁がしゅうとめに逆らいます。36 自分の家の人たちが敵になるのです）でも多くの場合、どれだけ反対してもやめさせることができないと気付くと、反対するのをやめます。激しく反対していた人が、熱心なエホバの証人になったということさえあります。ですから、反対に直面するとしても諦めてはいけません。勇気を出してください。エホバが共にいて聖なる力を与えてくださるのですから、何も恐れる必要はありません。

変化を経験する時

9. 神殿の土台が据えられた時、悲しくなったユダヤ人がいたのはなぜですか。

9 神殿の土台が据えられた時、それを見た年老いたユダヤ人の中には泣いた人たちがいました。（エズ 3:12 祭司、レビ族、氏族長のうちの多くの人、つまり以前の神の家を見たことがある年老いた人々は、この家の土台が据えられるのを見て大声で泣いた。一方、ほかの大勢は、大きな歓声を上げた）それらの人々は、ソロモンが建てた立派な神殿を見たことがあったので、今建てている神殿は「かつてと比べると、ないに等しい」と感じました。（ハガ 2:2, 3 「シャルテルの子であるユダの総督ゼルバベルと、エホツアダクの子である大祭司ヨシュアと、ほかの民に問い合わせなさい。3 『栄光があった頃のこの家(*神殿)を見たことがある人はいるか。その家は、今はどう見えるか。かつてと比べると、ないに等しいのではないか』）それで悲しくなったのです。とはいって、そうした人たちにとって、ゼカリヤに与えられた幻は喜びを取り戻す助けになったでしょう。どのようにでしょうか。

10. ゼカリヤ4章8-10節にある天使の言葉は、ユダヤ人が喜びを取り戻す上でどのように助けになりましたか。

10 ゼカリヤ 4:8-10 エホバは再び私に言った。9 「ゼルバベルがこの家の土台を据えた。彼が家を完成させる」。あなたは、大軍を率いるエホバが私をあなたたちのもとに遣わしたことを知る。10 「小さな始まり(*小さなこと)の日を軽く見たのは誰か。民は、ゼルバベルの手に下げ振り(d*石、スズ)があるのを見て、喜ぶ。エホバの7つの目もそれを見る。その目は地上全体に行き届いている」を読む。天使はどういう意味で、ユダヤ人は「[総督]ゼルバベルの手に下げ振りがあるのを見て、喜ぶ」と言ったのでしょうか。下げ振りとは、何かが完璧に垂直に建っているかどうかを確かめるための道具です。ですから、天使は神の民に対して、再建中の神殿がそれほど立派に思えないとしても、それは必ず完成し、エホバの基準を満たすことになる、ということを保証していました。エホバが再建された神殿を喜ぶのであれば、ユダヤ人も同じように喜ぶべきでした。エホバにとって重要な

のは、再建された神殿でご自分の基準を満たす崇拜が行われることです。ですからユダヤ人は、エホバに受け入れられる崇拜を行うことや、エホバに喜んでいただくことに思いを向けるなら、喜びを取り戻すことができました。



変化に対して前向きな見方をする。（11-12 節を参照。）*写真や挿絵：1人の兄弟が、年齢や健康の問題に伴う状況の変化に順応する必要を感じている。

11. 現代、エホバに仕えている人たちの中には、どんなことに難しさを感じる人がいますか。

11 変化に順応するの大変なことがあります。例えば、特別全時間奉仕を長年行ってきた人が割り当ての変更を経験することがあります。また、一定の年齢になると、それまで大切にしてきた奉仕の立場から離れなければならなくなるかもしれません。こうした変化を経験する時に、がっかりするのは自然なことです。初めのうちは、なかなか受け入れにくく感じるかもしれません。昔の方が良かった、と思うこともあるでしょう。前ほどエホバに十分お仕えできなくなった、と感じてがっかりするかもしれません。（格 24:10 苦難の時（*日）に落胆するなら、力が失われる）もしそうであれば、ゼカリヤが見た幻は、エホバに精一杯仕えていく上で助けになります。どのようにでしょうか。

12. 状況が変化して落胆を経験する時、ゼカリヤが見た幻はどのように助けになりますか。

12 エホバと同じ見方をするよう努力するなら、変化に順応しやすくなります。現代、エホバは素晴らしいことを行っています。そして私たちには、エホバと共に働くという貴重な機会があります。（ヨリ 3:9 私たちに与えられている責任や立場は変わるかもしれません、私たちに対するエホバの愛は決して変わりません。ですから、組織の決定によって何かの変化を経験するとしても、その理由についてあれこれ考えないようにしましょう。「昔の方が良かった」と思うのではなく、良い面を探すことができるようエホバに助けを求めて祈りましょう。（伝 7:10「昔の方が良かった」と言ってはならない。そのように言うのは知恵のあることではないからだ）できないことではなく、できることに目を向けてください。ゼカリヤが見た幻から、前向きな見方を持つことの大切さ

が分かります。前向きな見方を保つなら、変化を経験するとしても喜びを保ち、エホバに忠実に仕えていけるのです。（どんな立場/方法でもエホバを崇拝し喜んでいただける）

指示に従うのを難しく感じる時

13. 工事を再開するという決定は良くない、と思ったユダヤ人がいたのはなぜですか。

13 民を導く責任を委ねられていた大祭司ヨシュア（ヨシュア）と総督ゼルバベルは、神殿の再建が禁止されていたにもかかわらず、「神の家を建て直し始め」ました。（エズ 5:1, 2 さて、預言者ハガイと、イドの孫の預言者ゼカリヤは、ユダとエルサレムにいるユダヤ人に、イスラエルの神（d*上にいるイスラエルの神）の名によって預言した。2 そして、シャルテルの子ゼルバベルとエホツアダクの子ヨシュアは、エルサレムの神の家を建て直し始めた。神の預言者たちも一緒にいて支援した）この決定は良くない、と感じたユダヤ人もいたことでしょう。「工事を再開すれば反対者たちにそのことが分かり、あらゆる手を使って邪魔してくるだろう」と思ったのです。ですから、ヨシュアとゼルバベルは、自分たちにはエホバからの支えがあるという確信を必要としていました。そして、エホバはそのことを2人に確信させました。どのようにでしょうか。

14. ゼカリヤ4章12, 14節からすると、大祭司ヨシュアと総督ゼルバベルはどんなことを確信できましたか。

14 ゼカリヤ4:12 私は再び尋ねた。「2本の金の管で金色の油を注いでいる2本のオリーブの木の枝（実がなっている木の枝）は何を表しているのですか？」14 彼は言った。「これらは、全世界の主のそばに立つ2人の選ばれた者（d*油の子たち）を表しています」を読む。この幻の中で、天使はゼカリヤに対して、2本のオリーブの木は「2人の選ばれた者」を表していると述べました。つまり、ヨシュアとゼルバベルのことです。この2人は、いわば「全世界の主[エホバ]のそばに立」っていました。これは本当に名誉なことでした。エホバは2人を信頼していたのです。エホバがヨシュアとゼルバベルに民を導く責任を委ねていたのですから、ユダヤ人は2人から与えられるどんな指示にも信頼を置いて従うべきでした。

15. 聖書を通して与えられるエホバからの指示に従いたいと思っていることを、どうすれば示せますか。

15 現代、エホバは私たちを導くために聖書を用いています。聖書には、どうすればエホバに受け入れられる崇拝を行うことができるかが載せられています。では、聖書を通して与えられるエホバからの指示に従いたいと思っていることを、どうすれば示せるでしょうか。時間を取って聖書を読み、理解するよう努力することによってそうできます。次のように考えてみましょう。「聖書や出版物を読む時、時間を取ってじっくり考えるようしているだろうか。聖書の中で、『理解しにくい箇所』があったなら、よく調べるようにしているだろうか。それとも、さっと目を通すだけになってしまっているだろうか」。（ペテニ3:16 パウロはどの手紙の中でもこれらのことについて述べていますが、中には理解しにくい箇所もあります。無知で(*教えられていない)不安定な人たちは、そうした箇所や聖書のほかの部分を曲解し、滅びを身に招いています）エホバが教えてくださっていることを時間を取ってじっくり考えるなら、エホバからの指示に従い、伝道活動を最後までやり遂げることができるでしょう。（テモニ4:15, 16 これらのことについてよく考え(*黙想し)、打ち込みなさい。そうすれば、あな

たの進歩は誰の目にも明らかになるでしょう。 16 自分自身と自分の教えに絶えず注意を払いなさい。これらのこと
を粘り強く行いなさい。 そうするなら、あなたは自分自身と、あなたの言葉に耳を傾ける人たちを救うことに…)



「忠実で思慮深い奴隸」を信頼して、その指示に従う。（16節を参照。）*写真や挿絵: 1人の姉妹が、「忠実で思慮深い奴隸」にはヨシュアやゼルバベルと同じようにエホバからの支えがあるということを思い巡らしている。

16. 「忠実で思慮深い奴隸」からの指示をよく理解できないと思う時、それに従う上で何が助けになりますか。

16 エホバは私たちを導くために「忠実で思慮深い奴隸」も用いています。（マタ 24:45 主人が、召し使いたちに適切な時に食物を与えるため、彼らの上に任命した忠実で思慮深い奴隸はいったい誰でしょうか）時には、奴隸から与えられる指示をよく理解できないこともあるかもしれません。例えば、自分が住んでいる地域では起きそうにない災害に備えるように、と言われることがあるでしょう。また、忠実で思慮深い奴隸は感染症対策の面で慎重すぎる、と感じることもあるかもしれません。では、そのように感じる時、どうしたらよいでしょうか。ユダヤ人がヨシュアやゼルバベルから与えられた指示に従った時、どんな良い結果になったかを考えることができます。聖書に載せられているほかの記述について考えるのも良いことです。神の民は、理解できないような指示を与えられましたが、それに従った時、命を救われました。（哉 7:7 エホバはギデオンに言った。「手から飲んだ300人によって私はあなたたちを救い、あなたをミディアンに勝たせる。他の人々は皆、家に帰らせなさい」；8:10 ゼバハとツアルムナはカルコルにいて、約1万5000人の軍隊も一緒だった。これは東方の人々の全軍のうち残った人たちで、剣を帶びた人がすでに12万人倒れていた。〔11 ギデオンは、ノバハとヨグベハの東、天幕に住む人々の道を上っていき、陣営が油断しているところを攻撃した。12 ミディアンの2人の王ゼバハとツアルムナが逃げると、ギデオンは追跡して2人を捕らえ、陣営全体を混乱に陥れた〕）

ゼカリヤが見たものを見る

17. ランプ台と2本のオリーブの木の幻は、ユダヤ人にとってどのように助けとなりましたか。

17 ゼカリヤが見た5番目の幻は短いものだったかもしれません、神殿の再建やエホバへの崇拝に対して前向きな見方を持つよう、ユダヤ人を助けるものでした。ユダヤ人は、この幻から学ん

だことに沿って行動した時、エホバが愛情深く支え、指示を与えてくれていることを感じることができました。エホバは強力な聖なる力を用いて、彼らが建設を続け、喜びを取り戻せるように助けていたのです。（エズ 6:16 イスラエル人、祭司やレビ族やかつて捕囚にされた他の人々は、喜んで神の家の奉獻式(*献堂式)を行った）

18. ゼカリヤが見た幻は、私たちにとってどのように助けとなりますか。

18 ゼカリヤが見たランプ台と2本のオリーブの木の幻は、私たちにとっても、大いに助けになるものです。この記事で考えた通り、それは問題に立ち向かうための力や変化に順応するための喜びを得ること、また、理解しにくく思えるような指示に従順に従う上で必要な信頼を培うことに役立ちます。では、何かの問題にぶつかった時、何ができるでしょうか。まず、ゼカリヤが見たものを見るようにしましょう。つまり、エホバがご自分に仕える人たちを気遣っていることに目を向けて。そして、見たことに基づいて行動しましょう。エホバを信頼し、心を尽くしてエホバを崇拝するのです。（マタ 22:37 イエスは言った。「『あなたは、心を尽くし、知力を尽くし、自分の全てを尽くして、あなたの神エホバを愛さなければならぬ』）こうしたことを行うなら、エホバからの助けを得て、いつまでも喜びを持ってエホバに仕えていくことができるでしょう。（コロ 1:10, 11 エホバに仕える人にふさわしい歩み方をし、全ての点で神に喜ばれますように。また、あらゆる善いことを行って実を結び、神についての正確な知識をますます得られますように。11 そして、神の偉大な力によって十分に強くなり、あらゆることを忍耐し、辛抱しつつ喜べますように）

ゼカリヤが見た幻はどのように助けになりますか

I. 反対に直面する時

・S06 ランプ台と2本のオリーブの木の幻は、反対に立ち向かうようユダヤ人に勇気を与えるものでした。ランプ台には、絶えることなく油が供給されていました。2本のオリーブの木から、鉢のようなものに油が注がれ、そこから7つのランプそれぞれに油が供給されていました。そのおかげで、ランプの火は消えることなく燃え続けていました。油は、エホバの強力な聖なる力を表していました。聖なる力は尽きることはありません。そして、ペルシャ帝国の軍隊全てをもってしても、足元にも及ばないほど強力なものです。そのような力を持っているエホバが共にいてくださるのですから、ユダヤ人は反対があっても神殿の再建を成し遂げることができます。

・S08 現代でも、エホバに仕える人たちの多くが反対に直面します。でも多くの場合、どれだけ反対してもやめさせることができないと気付くと、反対するのをやめます。激しく反対していた人が、熱心なエホバの証人になったということさえあります。ですから、反対に直面するとしても諦めなければいけません。勇気を出してください。エホバが共にいて聖なる力を与えてくださるのですから、何も恐れる必要はありません。

II. 変化を経験する時

・S10 天使はどういう意味で、ユダヤ人は「[総督]ゼルバベルの手に下げ振りがあるのを見て、喜ぶ」と言ったのでしょうか。下げ振りとは、何かが完璧に垂直に建っているかどうかを確かめるための道具です。ですから、天使は神の民に対して、再建中の神殿がそれほど立派に思えないとしても、それは必ず完成し、エホバの基準を満たすことになる、ということを保証していました。エホバが再建された神殿を喜ぶのであれば、ユダヤ人も同じように喜ぶべきでした。エホバにとって重要だったのは、再建された神殿でご自分の基準を満たす崇拝が行われることです。で

すからユダヤ人は、エホバに受け入れられる崇拜を行うことや、エホバに喜んでいただくことに思いを向けるなら、喜びを取り戻すことができました。

・S12 エホバと同じ見方をするよう努力するなら、変化に順応しやすくなります。現代、エホバは素晴らしいことを行っています。そして私たちには、エホバと共に働くという貴重な機会があります。（コリー 3:9）私たちに与えられている責任や立場は変わるかもしれません、私たちにに対するエホバの愛は決して変わりません。ですから、組織の決定によって何かの変化を経験するとしても、その理由についてあれこれ考えないようにしましょう。「昔の方が良かった」と思うのではなく、良い面を探すことができるようエホバに助けを求めて祈りましょう。（伝 7:10）できることではなく、できることに目を向けてください。ゼカリヤが見た幻から、前向きな見方を持つことの大切さが分かります。前向きな見方を保つなら、変化を経験するとしても喜びを保ち、エホバに忠実に仕えていけるのです。（どんな立場/方法でもエホバを崇拜し喜んでいただける）

III. 指示を受けた時

・S13 民を導く責任を委ねられていた大祭司エシュア（ヨシュア）と総督ゼルバベルは、神殿の再建が禁止されていたにもかかわらず、「神の家を建て直し始め」ましたこの決定は良くない、と感じたユダヤ人もいたことでしょう。「工事を再開すれば反対者たちにそのことが分かり、あらゆる手を使って邪魔してくるだろう」と思ったのです。ですから、ヨシュアとゼルバベルは、自分たちにはエホバからの支えがあるという確信を必要としていました。そして、エホバはそのことを2人に確信させました。

・S14 この幻の中で、天使はゼカリヤに対して、2本のオリーブの木は「2人の選ばれた者」を表していると述べました。つまり、ヨシュアとゼルバベルのことです。この2人は、いわば「全世界の主[エホバ]のそばに立」っていました。これは本当に名誉なことでした。エホバは2人を信頼していたのです。エホバがヨシュアとゼルバベルに民を導く責任を委ねていたのですから、ユダヤ人は2人から与えられるどんな指示にも信頼を置いて従うべきでした。

・S15 現代、エホバは私たちを導くために聖書を用いています。聖書には、どうすればエホバに受け入れられる崇拜を行うことができるかが載せられています。では、聖書を通して与えられるエホバからの指示に従いたいと思っていることを、どうすれば示せるでしょうか。時間を取って聖書を読み、理解するよう努力することによってそうできます。

・S16 エホバは私たちを導くために「忠実で思慮深い奴隸」も用いています。（マタ 24:45）時には、奴隸から与えられる指示をよく理解できないと思うこともあるかもしれません。例えば、自分が住んでいる地域では起きそうにない災害に備えるように、と言われることがあるでしょう。また、忠実で思慮深い奴隸は感染症対策の面で慎重すぎる、と感じることもあるかもしれません。では、そのように感じる時、どうしたらよいでしょうか。ユダヤ人がヨシュアやゼルバベルから与えられた指示に従った時、どんな良い結果になったかを考えることができます。聖書に載せられているほかの記述について考えるのも良いことです。神の民は、理解できないような指示を与えられましたが、それに従った時、命を救われました。

7番の歌 エホバは私たちの力

^ (ゼカ 4:6) 彼は言った。「ゼルバベルへのエホバの言葉はこうです。『「軍隊によるのでも、人間の力によるのでもなく、私の聖なる力*によるのである」と大軍を率いるエホバは言う。